
氷結少年と黒の死神

亜紀内 司

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

氷結少年と黒の死神

【Nコード】

N0540BA

【作者名】

亜紀内 司

【あらすじ】

「貴様は罪を犯した 重大で最大の罪を」

黒い死神は、僕にそう告げた。

遙か昔、まだ精霊が人と関わっていた時のこと。

少年は人道を捨て、魔道に堕ちる。

そして彼に下った判決は「異界に転生し、神をも凌駕する石を死ぬまで守ること」だった。

シリアスっぽいですが、かなりコメディ入るかと（）

少年は、オワル（前書き）

久々に新しい小説を……（）

少年は、オワル

僕は、罪を犯した。

後悔という物は全くと言っていいほど皆無だったが、一つだけ心残りだったことは、弟の身だった。

「貴様は罪を犯した」

黒い死神は僕にそう告げる。

「重大で最大の罪を」

真つ黒い仮面を被り真つ黒い大鎌を手に真つ黒い外套を着た、黒髪の死神。

表情は見えない。

しかし声は抑揚のない、いかにも人とは懸け離れたものだった。

「何か反論はあるか？」

死神はそう言っ僕を覗き込む。

「ないです」

僕は一言そう言う。

覚悟は出来ていた。

ただの人間である僕が魔力を手に入れるため魔道に墮ち、その上、手に入れた力は滅んだはずの氷結族ケルトのものだった。

僕はしてはいけない事をしてしまったのだ。

天界に不都合極まりないことを。

「……そうか。では貴様に罰を言い渡そう」

死神はそう言って、一瞬笑ったような気がした。

「貴様には異世界に転生し“神珠石”^{レンメイ}を守ってもらおう」

「神珠石……？」

「そうだ」

死神は頷くと芝居がかったように両手を広げる。

「全ての原点の始まり……0であり、全てが終わる石。神という存在を凌駕する石の事だ」

少年は、オワル（後書き）

1月1日になにか投稿できたらなあ………と思いい勢いで書いてしまったのですが、しっかり完結させたいです（）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0540ba/>

氷結少年と黒の死神

2012年1月1日02時47分発行